

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和6年度第4回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	小金井市ごみ対策課		
開催日時	令和6年10月9日(水) 15時～17時		
開催場所	小金井市野川クリーンセンター		
出席者	委員	<出席者：14名> 渡辺会長・岡山副会長・溝入委員・岸野委員・光明委員・中村委員・橋爪委員・北村委員・多田委員・清家委員・保谷委員・長友委員・石原委員・井上委員 <欠席者：1名> 林委員	
	事務局	今井ごみ対策課長・鈴木ごみ処理施設担当課長・立崎減量推進係長・竹内清掃係長・高橋施設係長・高花主任・菊地主事	
	計画策定 支援受託者	パシフィックコンサルタンツ株式会社 山口 侑也担当技術者、立野 悠太担当	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	0
会議次第	1 開 会 2 報 告 3 議 題 (1) 小金井市一般廃棄物処理基本計画等諮問 (2) 令和7年度小金井市一般廃棄物処理計画諮問 (3) その他 4 その他		
会議結果	別紙審議経過のとおり		
提出資料	別添のとおり		
その他			

渡辺会長	これより令和6年度第4小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。
立崎減量推進係長	(配付資料確認) (会議録確認)
今井ごみ対策課長	富永委員の辞職に伴う市民公募委員の募集を行い選考した結果、10月1日付で新たに委員となった中村委員をご紹介させていただく。 (中村委員より挨拶・各委員自己紹介)
鈴木ごみ処理担当課長	(「報告事項」について説明)
光明委員	審議会委員で見学できるような機会はあるか。また、委員以外でも個人で見学することは可能か。
鈴木ごみ処理担当課長	希望があれば、3月ぐらいから見学可能になる。連絡をいただければ、個人でも見学は可能である。
渡辺会長	本日の審議会では、各計画についての諮問を受けることになっている。後ほど事務局から説明があるが、まず始めに諮問を受ける。
立崎減量推進係長	本来ならば市長からお渡ししなければならないが、公務の関係で代理として今井ごみ対策課長より諮問書をお渡りする。
今井ごみ対策課長	(諮問書受け渡し)
渡辺会長	それでは、事務局に説明を求める。
今井ごみ対策課長	(配布資料説明)
計画策定支援受託者	(配布資料説明)

渡辺会長	意見、質問はあるか。
石原委員	アンケートの対象は個人なのか世帯主なのか、対象事業所の選定方法も聞きたい。アンケートの発送と回収、集計方法も再度確認したい。
事務局	<p>住民基本台帳から満18歳以上の市民3,000人を無作為抽出してアンケートを送付する。そのうち80名は外国人とし、設問を中国語、韓国語、ベトナム、英語の4か国語で対応する。</p> <p>事業所に関しては、国の統計システムの事業所データを利用、もしくは前回同様に小金井市で事業所登録をしている事業所からの抽出を考えているが、できれば、個人事業主など幅広い事業所から抽出できる国のシステムを利用したい。</p>
渡辺会長	<p>前は年齢、性別関係なく無作為で行ったという事か。</p> <p>事業所に関しても業種など考慮せずに無作為で行うのか。</p>
事務局	<p>前は、大規模事業所であればおおよその業種を絞れたが、それ以外の事業所に関しては業種が分からず、業種の偏りを防ぐのは不十分だった。今回、国のシステムを利用する事で一定程度業種が判断できるので、ある程度業種が偏らないよう抽出を進めたいと考えている。その件については、計画策定支援受託者と相談をし、検討する。</p>
渡辺会長	その方法では、無作為とは言えないのではないか。
事務局	リストの中から無作為で抽出し、その中で偏りが出ないように考慮すると思われるが、この方法が今回初めてとなることから、具体的に申し上げるのは難しい。
渡辺会長	市民は住民基本台帳から無作為だが、事業所は無作為ではなく業種ごとにバランスよく抽出するという事か。
溝入委員	今回の事業所アンケートを見ると、食品ロスの分野を重要視している。であれば、食品ロスに関して答えてもらえるよ

	うなサンプルの抽出方法になるのではないか。
渡辺会長	サンプルの抽出方法についてご提案いただいた。 他に計画の位置付けとスケジュールについて意見はあるか。
橋爪委員	「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の文言は、表の中のどこに出ているのか。
計画策定支援受託者	図の中では「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の略称である「廃棄物処理法」と記載をしている。
光明委員	アンケートの対象者が3,000人という事だが、前回のアンケートの対象者と重複しないよう配慮はするのか。
事務局	配慮はしない。
石原委員	前回の回収率はどの程度か。
事務局	市民は50.9%、外国人は17.5%、事業所は40.5%である。
溝入委員	この数値は、初期の想定から見て高いか低いのか。
計画策定支援受託者	前回から初めてWeb方式を取り入れたため、想定よりは高くなった印象を受けた。他事例では大体40%～50%ぐらいの間で推移するが、市民のアンケートは半分が返ってきた。外国人については予想の範囲内だが、事業所からの返答も比較的多い印象である。
渡辺会長	質問の原票は実際に送付するものとは異なるのか。
計画策定支援受託者	実際の送付物は別途準備している。例えば市民用では、表紙に依頼文と、年齢や、地区、世帯など属性を問う書面と、別紙を調査票の形式に整えたものを想定している。
岸野委員	受け取ってから期限内に返信するという事か。

計画策定支援受託者	紙面で返信いただくか、QRコードを依頼文につける想定をしているので、それを読み込んで電子媒体で回答いただく選択肢も準備する。それを包括し、最後に集計する予定である。
橋爪委員	アンケートはマークシート方式か。回答者、データ処理担当者としてはマークシートの方が楽なのではないか。
計画策定支援受託者	マークシートではなく丸をつけていく形を想定している。
渡辺会長	データ処理担当者は楽であるが、回答する側は丸を付けるでも、塗りつぶすでも同じと思われる。
計画策定支援受託者	紙回答で回収した内容については、担当者含めてスタッフでエクセルに入力をしていくような形で集計を行う。 Webアンケートもエクセルの形式でデータを出力できるので、それと統合する形で集計する枠組みになる。
光明委員	外国人へのアンケートも日本語で行うのか、母国語に合わせたものを送付するのか。まず表紙を付けてアンケートを送るようだが、何語で送付する予定なのか。
計画策定支援受託者	アンケート調査票に関しては多言語の想定をしているが、依頼文については調整中である。今後検討させていただく。
石原委員	小金井市の外国人の比率はどれくらいか。
事務局	令和6年5月末の時点では、子供を含め3,473人である。中国が1,254人、韓国が304人、ベトナムが250人、ネパールが459人となっている。住民基本台帳の外国人のみの世帯数が約2,000件、割合は約3%程である。
石原委員	アンケート送付から集計までのスケジュールリングを聞きたい。本日中に全て検討する予定なのか。例えば再度確認して修正箇所があれば、どのように受け付けてもらえるのか。
計画策定支援受託者	変更になるかもしれないので、あくまでも目安とさせていた

	<p>だが、スケジュールとしては10月末までに本日いただいたご意見をもとに内容の修正を行い、その後、最終チェックと事務局内での調整を経て多言語への変換なども行い、11月末から12月初旬に発送する予定で調整している。</p>
石原委員	<p>回収は年内か。</p>
計画策定支援受託者	<p>前は約1か月を回収期間に充てたかと思う。年末年始を挟む関係で、期限をいつまでにするのかは、事務局と調整をしていきたい。</p>
渡辺会長	<p>まずは市民アンケートについて意見、提案はあるか。</p>
中村委員	<p>設問について何点か提案がある。</p> <p>Webでもアンケートの回収を行う予定とのことだが、無作為抽出で郵送するだけでなく、回答項目に年齢、集合住宅か一戸建てなどを含めた上で、市のホームページや掲示板にQRコードを掲載して、不特定多数から回答を得るのがよいのではないかと思う。前回のアンケート結果を見ると、年齢層ごとの回答数は約100人程度であったことから、1人、2人の意見が1%、2%に相当するし、特異な人物がいるとデータの印象が変わるとは思うが、そのような方法にすれば、ほとんどコストがかからず、一定の回答が見込めるのではないか。</p> <p>次に、発生抑制を最優先に取り組んでごみの量を削減するというわりには、それに関する質問がないような気がする。例えば、家庭で発生する紙ごみについて、必要なものはやむを得ないが、一方で、チラシやお歳暮やバレンタインデー等の包装など、生活習慣ということはあるものの、予期せず発生してしまうものが確実にごみを増やしている。そういった観点で、どういう習慣によってチラシ等がごみとして出ているのかアンケートをとり、それを受け、市からのアクションとして、こういった習慣は改めていくなどの見直しをできるような質問を入れてはどうか。啓蒙活動につなげていく事も可能である。</p> <p>また、Q2ではごみ処理のコスト構造について記載しては</p>

	<p>どうか。例えば、燃えるごみは回収にいくら、処理にいくらかかっているか。業者への販売で逆に収入がいくらか。燃えるごみは処理コストがかかっている事から、優先して減らす、資源ごみに関してはプラス収支の為、出しても問題にならないなど、市民が把握しているのが望ましい。ごみのカテゴリーごとに、どのようなお金がかかっているか、あるいは収入になっているなど把握できれば、市民として本気でこの削減に取り組む判断材料になると思う。</p>
渡辺会長	<p>ごみの処理費に関する項目を追加するという事か。</p>
中村委員	<p>処理コストを知ること、市民としては予想以上に経費がかかっており、削減しようという意識も生まれるのではないかな。</p> <p>趣旨がよく理解できなかったのが、食品ロスの可食部分について言及したもので、それを設問とすることでどういったアクションに繋げるのか。アンケートの結果を受けた上で何らかのアクションをする、もしくはアクションの根拠にするから問うのであり、結果に結びつかないような質問はあっても意味がないと思っている。</p>
光明委員	<p>Q8に「使用済みステンレス製ボトル」とあるが、ステンレス製、アルミ製、スチール製など一般の人は把握できていないと思う。金属製ボトルと記載してもらえればいいが、もし回収するものは、ステンレスと限定するのであれば商品名などを入れないと困難だと思う。</p>
北村委員	<p>Q3の分別の程度についての質問で、「あまりしていない」「していない」人はQ4へ誘導する形式になっており、前回のアンケートを見ると「手間がかかる」という回答が圧倒的に多かったと思うが、どうすればごみの分別ができるようになると思うか等、一歩踏み込んだ設問がこの後に続かない。現在、一部の小金井市民のごみ出しの意識は高く、ごみの分別に協力的だと思う。その中でごみを削減するにはどうすべきか、そこで今までごみの分別をできていない人が、いかに協力して分別をしてくれるかということが大切だと思われる。</p>

	<p>る。分別をできていない人に、どうしてしていないのか、どうしたらできると思うか、という設問があると、次に繋がるのではないかという印象を持った。</p>
渡辺会長	<p>Q4がそれを想定して作られていると思う。収集日を伝える事で協力を得られたり、分別方法を把握できていない場合は、より広報しなければならないという意識で質問していると思う。Q4で選択肢を増やすという事か。</p>
北村委員	<p>「どうしたらできるようになるのか」というような切り口が欲しい。小金井市民は非常に協力的で、種類ごとに仕分けして出しているが、分別が大変という声を多く聞くし、それが面倒だと感じている人も中にはいる。それをいかにより方向に持っていけるかということだと思う。</p>
中村委員	<p>前回の調査結果では、全体的に意識は高く、若い人も分別している、しなければならないという意識を持つ人が比較的多い。高齢になるとその意識は減少するが、逆に、実際に分別しているという人の割合は増加している。現役世代は働いていたり、子育てで時間がないのであろうことが推測される回答だが、リタイアして時間がある人は分別をしっかりとできていると考えられる。一方で、20代の社会人になりたての人が分別の意識が低いように感じられた。今まで親に任せていた事を、一人暮らしをきっかけに意識が低下してしまうのも考えられる。</p> <p>その中で20代が一番アプローチすべき年代だと思う。いずれ家庭を持ち、家族を指導していく立場の人の意識を高めれば、今後何十年もその影響が出ると思われる。忙しい人に分別しろというのは酷な部分もあるが、その辺を考慮し、次にどうつなげるかという設問を設けて欲しいと思う。</p>
長友委員	<p>分別が面倒臭いというところはあるが、分別の仕方を理解できていないのも原因である。燃えないごみとプラスチックごみの違いが理解できていないので、分別に関しての情報があればよいと感じる。また、時間がなく溜めてしまう人も一定数存在する印象があり、そういう人は結局コンビニに持ち</p>

岡山副会長	<p>込んで捨てる事もある為、そういった行為に対するアプローチは必要だと思う。</p> <p>例えば、Q 1 2 の設問で、啓発等の機会の提供だけではなく、更なる情報提供や、強制的な手段として指定収集袋の変更も考えられる。具体的には、プラスチックごみと可燃ごみの指定収集袋の値段が同じであるため、プラスチックごみの価格を下げる、あるいは可燃ごみの価格を上げることも施策の一つである。また、収集回数の変更も効果的である。こうした施策を加えることで、周囲の意識を高め、減量につなげることができると思う。</p>
橋爪委員	<p>依頼文の文章はどういった文言になるのか伺いたい。何を目的にアンケートを行うのかという理由が必要だと思うが、依頼文が付いていないので、アンケートの内容が理解できない。</p> <p>もう1点、アンケートの回答者にフィードバックはあるのか。フィードバックをしないとアンケートの回答者は増えづらいと思う。集計後に市報に掲載する、または何らかの発信が無ければ、アンケートを出しても次に繋がらないと思う。前回の回収率は50%程度だが、フィードバックがない限りアンケートの回収率を増やすのは困難だと思われる。その為の依頼文の文章が重要になると考えられるがいかがか。</p>
計画策定支援受託者	<p>依頼文はアンケート調査票に添付する予定である。今回の内容はまだできていないため、精査のうえ後日お示しする。</p>
中村委員	<p>現在、イトーヨーカドー武蔵小金井店が廃食油回収を行っているのでQ 8 に追加して欲しい。</p> <p>先ほど不特定多数にWebでもアンケート回収してはどうかと考えた理由の1つとして、このアンケートに答える過程で小金井市の取組に気づく事ができるということもある。いろいろな人にアンケートを答えてもらうことで、アンケート自体が情報提供となり、ごみについて知るきっかけにも繋がると思う。</p>
渡辺会長	<p>軽度の情報提供になればよいが、説明を入れる事で、アンケ</p>

	<p>ートの回答を誘導することになりかねない。</p> <p>アンケートは市民が何を知り、どう思っているか、どう行動しているかを把握するために行うのか、それとも、PRするために行うのか、その点を考えてやるべきだと思う。</p>
<p>溝入委員</p>	<p>非常事態宣言から今の状況も含めた、小金井市の今までの取組を記載してもらえないか。</p>
<p>計画策定支援受託者</p>	<p>平成18年のごみ非常事態宣言については前回も記載しているが、前回との大きな変化として浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設が稼働を開始し、3市共同処理が始まったことが考えられるので、そこは追記する。</p>
<p>岡山副会長</p>	<p>では、Q2で選択肢10の下に「ごみ処理コスト」の項目を加えて欲しい。</p> <p>それから、Q4の選択肢に「興味がない」という項目を入れてもいいかと思う。</p> <p>Q8に、期間限定でなければ、廃食油をイトーヨーカドー武蔵小金井店で回収していることを追加してもらいたい。</p> <p>Q9②-1については、個人的には必要ないと思う。設問を入れるとすれば、期限表示についての意識として、期限を過ぎたものについてどうしているか等の項目を入れるのがよいのではないか。賞味期限、消費期限のどちらがついているのか理解できていない人がほとんどである。そのため、期限が切れたものはほとんど捨てられているので、それらの事がわかるものがよいのではないか。そもそも過剰除去という言葉が食品ロスの中に入れることは意味がないと思っている。個人的な意見だが、ここの項目に関しては、差し替えはした方がよいと思う。</p> <p>同じくQ9④については、普及啓発のことになりがちだが、Q12と重複してくるので、例えばフードパントリーやAI冷蔵庫の補助などのように具体的な施策があるとよい。</p> <p>Q12については、市民にとって、こうであったらよいのに、というものが含まれていてもよいのではないかと思う。</p>
<p>中村委員</p>	<p>Q9④について、選択肢に講習会やイベント等があるが、</p>

渡辺会長

アンケートでそれを行うと、そのままコストをかけて開催することになるのではないか。例えば、講習は1回数十人だと思いが、効率がよくないと思う。それをやるのであれば、テレビ番組でごみの特集をしてもらい、公共広告機構で広告を打ってもら方が多くの人に効果があるような気がする。アンケートに出す候補は、あまり気軽にマルをつけられても効果が薄そうなものはあらかじめ削るべきである。資金に限りはあるので、どれを一番にやるべきか絞った方がよい。

Q9で、食品ロスが「まだ食べることができるのに廃棄される食品」という定義になっているが、この定義でいくと、例えば賞味期限が過ぎたものは食べられないと認識している消費者にとっては、「賞味期限が切れたものは食品ロスではない」という認識になってしまう。他にも、本人が食べることができないと認識してしまえば、すべて食品ロスにはならない。ここはやはり、「本来食べることができたのに、廃棄してしまった食品」というような書き方にしないと、賞味期限で悪くなったから食べられないので、食品ロスじゃないという解釈をしてしまう人が出てくる恐れがあるので、定義を変更した方がよいと思う。

過剰除去の設問についても、過剰除去と使い残しの食材は別の物であるので、あえて設問にするのであれば、生ごみの中に過剰除去に該当するものが含まれているか、という設問になる。

プラスチック容器の洗う、汚れを取り除くに関してだが、汚れを拭き取るのでは駄目か。汚れを取り除いてプラスチックごみの日に出していれば、必ずしも洗わなくても拭き取って出してもらっても構わないのではないかと思うが、回答者はどの程度汚れを取ったらごみで出せるのか悩むところだと感じる。この設問だと必ず洗うべきだという印象を受ける。

それから、Q10③の選択肢がおかしいと思う。2に関しては「電池を取り出さずに、製品ごと電池を有害ごみの日に出している」にした方がよい。3、4に関しては、電池を取り出した、出さないにかかわらず、燃やすごみの日、燃やさないごみの日になるのか、これだと混乱しそうだという印象を持った。

井上委員	<p>それからQ11で「おいくら」「ジモティー」を紹介しているが、これは選択肢のうちのどれに該当するのか。「おいくら」はフリマアプリになるのか、不用品買い取り出張サービスになるのか、リユースショップの買い取りサービスになるのか不明というところがあるので、「おいくら」はここに該当します、「ジモティー」はここに該当します、ゆづる輪はここに該当しますと説明を入れた方がよい。</p> <p>私自身、日の出町処分場問題からごみ問題の関心を持ってきた。何か危機感がないと動きづらいと感じる。</p> <p>依頼文の中には、小金井市が抱えてきた問題を絶対に書いて欲しい。土曜生ごみ投入に携わっているが、ごみに関心がある人でも、浅川清流環境組合がいつから稼働しているか把握していない事がある。新型コロナウイルス感染症が広まり始めた2020年4月に、ひっそりと稼働し始めた事を知らない市民も多い。一方で、稼働し始めたことで安心している部分もあるが、来年で稼働して5年経ち、あと25年しか稼働できない。次のごみの焼却場を見据えて、ごみは削減すべきという活動を続けなければならないため、自分が何をできるかということを考えて欲しくてアンケートを出すのだというような訴えかけをして欲しい。</p>
渡辺会長	<p>それで言うと、浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設は30年後に使えなくなるということを知っているか、というのを入れた方がいいか。</p>
井上委員	<p>それぞれが、色々な立場から自分に何ができるかの気づきにもなるアンケートであって欲しい。</p> <p>調査対象事業所は、法人登録をしているところとあるが、保育園等には配布されないのか。</p>
事務局	<p>検討中であるため、事業者の抽出方法を今この場で即答できなくて大変申し訳ないが、国の集計資料には各事業所が報告している内容がまとめられており、小金井市内にいくつの事業所が存在するのかなどの情報も含まれている。そのため、今回はその資料を利用する方向で調整を進めている。そ</p>

石原委員	<p>れが上手くまとまれば、全体の事業所の中から抽出することも可能である。しかし、調整がうまくいかない場合は、前回同様の形で進める可能性もある。</p> <p>Q9⑤、選択肢2の「必要量だけの販売・提供（少量パック、量り売り、小盛など）」について、我々世代のほとんどの方は量り売りを覚えていて、また、海外に住んだことのある人は量り売りが当たり前だと思うが、今は全てパックに一定量が入って売られており、食品ロス問題にも関係してくる。量り売りだとプラスチックのケースがいらぬなど、言葉より実際の行動の方から示した選択肢の方がよい。</p> <p>保谷委員に伺いたいのだが、食べきりの呼びかけについて実際できるのかということと、持ち帰りについての実情はどうなっているのか。</p>
保谷委員	<p>持ち帰りは不可であると保健所から言われている。勝手に持ち帰られてしまう場合でも、何か起きた場合は店の責任となるため、基本的には実施できていない。</p>
渡辺会長	<p>保健所の指導については市で何とかなるものではない。</p>
岡山副会長	<p>食品ロス削減推進法の中では改正されたが、持ち帰りなどについては疑問が残る。ただ、法令が改訂された以上、事業者には責任が被らないようにされているはずだが、実際に実施されているかどうかは不明である。</p>
渡辺会長	<p>次に、別紙4の事業所意識調査について意見はあるか。</p>
長友委員	<p>Q1に関して、その他可燃物、その他不燃物とあるが、最後のその他とは何が違うのか。その他可燃物とすれば、たくさんあると思われるが、どこまで選択肢を選べばいいのか理解できず答えにいと感じた。</p>
岡山副会長	<p>事業所と家庭とではルールが大きく違う。紙類等が非常に細かく分けられているため、紙が抜けた後、生ごみなどは別として、その他の可燃物ということに大体分けられている。</p>

渡辺会長	<p>その他可燃とその他不燃とあるが、それ以外に「その他」は存在しうるのか。</p>
岡山副会長	<p>すべてに該当しないもので、特殊なものが出る事業所がある場合に使用するのだと思われる。</p>
渡辺会長	<p>考え方としては、何か特記的に書いて欲しい、書きたいというものがあつた際、一番下に書いてもらうという事だと思う。</p>
井上委員	<p>事業所を対象としているから、例えば、事業所の規模によって市が集めるとか許可業者に頼むとか、そういったことを書いて欲しいのだから、可燃物も必要だと思う。ただ、それが非常に分かりにくいので、ただの可燃物でよいのではないか。</p>
渡辺会長	<p>括弧で例を入れてみる等、何かもう少しわかりやすくする工夫が必要だと感じる。</p>
中村委員	<p>可燃物の枠を一段追加して、その中に、その他可燃物までが入る感じなのか。</p>
渡辺会長	<p>まず可燃物があり、さらに生ごみから雑紙まであり、落ち葉、剪定枝かその他可燃物という感じになればわかりやすいかと思う。</p>
保谷委員	<p>今回の審議会での対象には、産業廃棄物は含まないという理解でよいか。例えば製鉄所の鉄くずは産業廃棄物だと思うが、どこからどこまでが産業廃棄物で、どこからどこまでが市が処理するものなのか。</p>
渡辺会長	<p>事業所から出てくる金属やプラスチックはすべて産業廃棄物である。生ごみなど食品廃棄物については、食品加工工場でなければ産業廃棄物にはならないので、おおよそ市の事業所からの分は一般廃棄物ということになる。この一覧でいくと、プラスチック、缶類辺りが産業廃棄物に該当すると思われる。</p>

溝入委員	あまり細かくそれぞれにこだわらず、アンケートを回答した人が解釈して行うものが、小金井市の現状だということである。あまり定義を付けない方がいいのではないか。そうしないと現状把握の意味がなくなってくると思う。
橋爪委員	事業所は誰が回答するのか。
渡辺会長	会社の廃棄物担当の人が回答したのか、管理職の人が答えたのか。会社名や個人名を特定しないようなアンケートになっている。立場は聞くことができる可能性がある。
岡山副会長	回答者を特定できる情報を聞くのは望ましくない。しかし、例えばこちらから依頼文の中に、こういう部署の人に答えて欲しいという事があれば書き加えることは可能である。ただし、事業形態や規模など余りにも多様であることから、やらないほうがいいと思われる。
渡辺会長	できればごみに関わっている担当の人が望ましい。
岡山副会長	そこは会社で判断してもらうしかないと思う。 Q9に関して、不燃ごみはあるが可燃ごみが加わっていないので入れていただきたい。
中村委員	Q11に関して、先ほども上げたが、アンケートに書く施策は慎重に選んだ方がよいと思う。 Q13の罰則制度に関連する事だが、事業者の場合インセンティブがあってもよいのではないか。例えばISO14000を取得していると、ゴミ袋が安く購入できる、減税される等、プラスに働く施策を市としてやるつもりがあるのであれば、そういうものを候補に挙げてよいと思う。
岡山副会長	補助金が出るなどもよいかもしれない。
中村委員	事業農家では規格外の野菜などの廃棄があると思う。小金井市はそれほど農地が多いわけではないが、今回はあまり着目しないのか。

渡辺会長	出てくる場合もあり得ると思う。今回は特に食品ロスに関する内容を充実させようとしているところがあるので、これにも着目してはどうか。
中村委員	例えば畑で、規格外とはいえ本来食べられるが土に埋められてしまうものは、統計上元々数値がないものだから、それを削減した所で削減効果としては出てこない。
渡辺会長	統計的にはそうだが、食品ロスを減らすという趣旨においては、やはりそれも減らしたい。
中村委員	市としては効果を数字で示せないやりづらいと思う。
岡山副会長	SDGsでは、規格外として農地で埋められるものも食品ロスに含まれているが、日本では法令上、環境省も農林水産省も、食品ロスとして認定をしていないのが現状である。
岸野委員	市民アンケートに戻るが、Q8⑦に「くつ・かばん類」とある。ぬいぐるみなど凡例を書いてある方がもっとわかりやすい。
渡辺会長	では、「くつ・かばん類」に対象にしているものを加えていただく。 他に事業所アンケートで気づいたところがあれば、個別に事務局に連絡いただき、事務局には対応をお願いする。 災害処理計画について、何か意見はあるか。
石原委員	災害廃棄物は多量に発生するが、予算設定はどうなるのか。
岡山副会長	災害が起きてから見積りを行って決めている。災害規模に応じて国からの補助があるが、廃棄物処理法上は、原則として1/2である。
計画策定支援受託者	国の補助が50%で、40%が特別交付税で負担される。残りの部分については、その災害の規模によって負担が変わ

<p>渡辺会長</p>	<p>ってくる。基本的には一般廃棄物の処理として公費となる。</p> <p>災害廃棄物に関してはこれからもう少し具体的に色々出てくると思われるので、そこでまた審議していきたい。</p> <p>令和7年度一般廃棄物処理計画について、事務局に説明をお願いします。</p>
<p>立崎減量推進係長</p>	<p>(「令和7年度一般廃棄物処理計画」について説明)</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>引き続き審議していくが、今の説明に関して何かあるか。なければ次回以降の審議の時にまた出していただきたい。</p>
<p>橋爪委員</p>	<p>令和7年度の処理計画案の表紙が「ごみ対策課」になっているが、「小金井市」ではないのか。</p>
<p>立崎減量推進係長</p>	<p>この部分については、前年踏襲で作成しており従前より「ごみ対策課」となっている。再度確認のうえ検討したい。</p>
<p>岡山副会長</p>	<p>本日は全て意見をいただいただけの状態であり、これらをもう1度確認する必要があると思われるが、再度審議することは可能か。</p>
<p>今井ごみ対策課長</p>	<p>ご意見を踏まえて精査し、確認していただいたうえで進めた方が良いと思うので、アンケート調査を発送する前に再度審議いただけるよう、日程を調整させていただく。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>これをもって、審議会を終了する。</p>